

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391300043		
法人名	社会福祉法人いっつ星会		
事業所名	グループホームおからぎ		
所在地	岩手県二戸市堀野字大川原毛89-12		
自己評価作成日	平成23年1月20日	評価結果市町村受理日	平成24年7月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0391300043&SCD=320&PCD=03
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(財)岩手県長寿社会振興財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成24年2月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自宅と同様に生活の場として、自分らしい生活リズムに沿った過ごし方ができるようにゆったりとした雰囲気を作り出している。生活の中に自分なりの日課や役割を持っていただくことで生活にメリハリを作ったり、生活感を実感できるように支援を行っている。

県立二戸病院に隣接した、社会福祉法人いっつ星会が運営する、開所1年目の新しいホームである。ホームの周囲は同法人デイサービス、薬局、食堂、商店と商業地域であり、人の往来は多いが人家は少ない。ホーム独自に、利用者・家族のアンケートを行い、希望や要望を聞き取り、ケアに反映をさせている。運営推進会議には、利用者も参加している。ケアプランの同意には、来訪出来ない家族には、職員が自宅に向向いて説明し、同意を頂いている。ホームの内部は、落ち着いた色調で、太い木材の梁に懐かしさを感じる。天窓からの明るい日差しをロールスクリーンで調節したりと、細部に渡り、気遣いがなされている。利用者はゆったりと、思い思いに時を過ごし、職員も穏やかで、そっと寄り添い、暖かい雰囲気である。開所間もないホームであるが、管理者を先頭に、職員が一丸となって利用者に向き合う様子が頼もしく感じられる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を踏まえ、事業所行動指針を3月開設当初策定し、それを踏まえ、事業計画等を策定している。	法人の理念を基に事業所ごとに目標を設定している。 更にホームとして「行動指針」を全職員で作成し、ケアの向上に繋げている。月1度の業務会議で話し合い、結果を共有している。	法人の事業報告書を職員全員が所持しており、会議の際にも使用したりしている。理念等の掲示が無く、目に触れることがなかなか出来ないの、目に付きやすい場所に掲示することに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し活動している。 隣のスーパーで、毎日食材を購入している。 近隣の飲食店に、外食の日を設け、出向いている。	自治会の回覧板を利用者と共に配っている。近くのスーパーに毎日買いだしに同行する利用者もいる。週1回は車で買いだしに出かけている。体調に応じて同行もある。月1回は外食の日を設定し出かけて食事を楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホーム待機者が常に居る状況で、申込者に対し、地域のサービス等の説明や相談にのっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者サービスアンケートの実施報告等を行った。	家族アンケートや推進会議の中で家族から、入り口スロープに屋根の設置希望、職員の名前を分かるようにしてほしい、写真を掲示してほしい等の意見があり、現在取り組み中である。会議を3度開催しているが徐々に意見が出始めてきている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の委員に市役所職員、地域包括支援センター所長になって頂いており、取り組み状況を報告・協議したり、情報交換を行っている。	二戸市からの指導で市の防災マップを基本にホームの防災マニュアル作成の助言があり、計画に取り込んでいる。市のケア会議には、ケアマネが参加をしている。行政から推進会議に参加をいただいているので、普段の連絡は電話で行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないことを、契約書に謳っている。法人内部研修会を実施、各職員が虐待防止の意識を持って業務を遂行している。	拘束に繋がるケースは無い。「ちょっと待ってね」の言葉も使わないように研修・指導をしている。立ち上がり、起き上がりのふらつきには、事故防止のために離床センサー・転倒予防マットを使用している。玄関には高い部分に、開閉スイッチを設置している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内部研修会を実施、各職員が虐待防止の意識を持って業務を遂行している。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームおからぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内部研修会を実施。 事業所じたいには、制度対象者はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に施設見学をしていただき、概要説明等についても、十分な時間をとり、説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を実施している。 よろず相談所を第三者委員に依頼し実施 第三者委員に連絡を取れる環境がある。	入り口スロープの屋根取り付け要望には、現在は、除雪と傘差し支援で対応している。ホーム内の相談窓口はあるが、外部の窓口の明記があれば良いと思われる。近々、職員の写真と名前をホール内に掲示をする準備をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務会議を月一回行い意見交換を行っている。 職員アンケート、面談を行っている。	職員アンケート、面談では、内部異動、認知症の理解、ケアのスキルアップ等の意見が出ている。管理者は職員の意見を聞き取り、働きやすい職場作りに尽力している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に職員にアンケートや面談を行い意向を確認している。 人事考課を実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内部研修の実施 外部研修にも参加の機会を設け、知識の向上に努めている。 新人研修やOJTの実施		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に入会し、研修や定例会に参加して。交換研修では、他事業所へ行き実習等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に情報を収集し、アセスメントを行い、支援につなげている。 担当職員とも事前面接を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安や要望を聞き安心してサービス利用を開始できるように支援を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所申し込み時に本人の状態をアセスメントし、サービス受け入れを行っている。 ケースにより各関係機関と連携を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の意向を尊重した支援を行っている本人様の出来ることを一緒に皆で行い、暮らしを共有出来るよにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	基本的に病院受診は家族にお願いしている。家族が来所の際は近況を伝え、連携できるように支援を行っている。些細なことでも、家族へ相談・報告し、家族との繋がりを大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	同一敷地内の通所介護のご利用者や交流する機会を作ったり、家族や知人の方の面会時にゆったりと過ごしていただくように努めている。	隣のデイサービスに出かけたり、デイから来ていただいたり交流をしている。ボランティアの踊りや、歌がある時には、出掛けて行き、楽しんでいる。敬老会も(デイと)合同で行っている。法人の夏祭りには、家族も参加をして満足をしていただいた。馴染みの美容院へ家族と出掛ける方もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	本人の能力を把握しながら、出来ることは皆と一緒にできる様に支援している。なるべく周囲と関わりをもてるようにしている。孤立しがちな方には、得意なことを行っていたり職員が関わっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	なかなかできていない現状である。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の観察をしながら、本人の意向や希望を把握できるように努めている。職員同士で情報を共有し、支援につながるようにしている。日々の中で、ご本人が話していた内容を記録に残すようにしている。	半分の利用者が自分で思いを伝えることが難しい。テレビから話題を見つけたり、家族から聞き取りをしたりしている。言葉の気付きを、書き留めて職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、また、家族が生活等について伺ったり、担当ケアマネージャーから情報を収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々観察をしながら、記録で職員間の共有をし支援を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意向や生活状況をアセスメントし、ケアプランを作成している。基本的には、3ヶ月に1回評価・見直しを行っている。	月1回の業務会議で、カンファレンスをして状態変化を見逃さない取り組みをしている。通院介助に来た家族から意見を聞いたり、来訪出来ない家族には訪問して意見の聞き取り、作成後は同意をもらっている。変化については随時見直しを行う。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各個別のチャートに24時間の流れで記録を行っている。申し送りノートを作成し、支援内容を職員で共有している。介護日誌、連絡ノートの活用。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人家族の意向に沿った係りができる様にニーズに応じた支援を行っている状況を見て、外出等を企画する等している。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームおからぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所のスーパーに買い物に行ったり、食事に行ったりと地域に馴染めるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前から、主治医との関係を継続し、医療が受けられるように支援している。その都度、状態に応じた内容を報告し、指示をもらい支援を行っている。	主治医は二戸病院が主であるが金田一診療所の利用者もいる。家族通院には、状況提供を口頭で行っている。変化がある時には、書面で提供している。家族対応が出来ない時には、タクシーを使い、保険外サービスのヘルパーが対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の通所介護の看護師に利用者の情報、内服薬・主治医を伝え、把握している。急変時には、指示を仰ぐことができる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	県立二戸病院と協力関係にあり、退院時カンファレンス等行っている。地域医療連携研究会に参加している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在は、ターミナルケアを行っていないが、本人の意向、家族の意向等により、検討する必要があるかもしれない。	重度化、ターミナルに向けた指針の作成は考えていない。ホームでは看護師がいいため看取りは出来ないことを利用開始時に説明している。ホームで限界になった時には、法人の特養、他施設の紹介をして行く旨を説明している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、救急救命講習を受ける予定。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼・夜を想定した避難訓練を行っているが、地域との連携協力体制は築けていない。	デイサービスと合同で昼・夜想定避難訓練を行った。3.11の震災は開所前であったが、カセットコンロ・ガス式発電機・水・食料・懐中電灯等を準備した。昨年の冬季、雪による停電を経験している。隣近所、地域消防、老人会、婦人会等の地域の方々との協力体制は今後検討していくこととしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報、プライバシー保護の研修を行っている。利用者の尊厳を傷つけない様に注意しケアを行っている。	居室の開閉時には、注意をしている。トイレ等の声掛けが必要のない方は2名いらっしゃる。口腔ケアを居室で行う方、ホールの洗面台で行う方と色々であるが、それとなく見守りしている。法人のプライバシー保護の指針があり、ホームでも参考にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や思いを達成できるようにケアを心がけている。本人の意思を大事にしている。職員は、話易い環境や雰囲気づくりに努め、自己決定ができるよう、選択肢を増す工夫をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者がしたい様に寄り添うように支援を行っている。役割を持っていただき、個々のペースに合わせ、対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に来訪をお願いしたり、家族の支援も含め床屋に出向いたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の会話の中で、利用者さんの嗜好を把握し、メニューを考え提供している。片付けは、主に利用者中心に行っていただいている。調理の頻度は少ないが、できるだけ、声かけし、行ってもらうようつとめている。	メニューの要望があったときには、早めに対応している。刻みの得意な方、茶碗拭きが得意な方が参加をしている。職員は弁当持参で交代で休憩を取りながら食べている。現在は食事介助が必要な方はいない。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取状況を管理しながら、排泄状況、体重管理を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔保持のため、食後、声かけによりうがい等行なっている。寝る前の口腔ケアを入念に行っている。出来ない方には、介助をしている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームおからぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	竹内式自立支援に取り組んでいるため、基本的に布とパット使用。トイレで排泄する事を意識し、本人の排泄パターンに応じた声かけ、介助を行っている。	入居以前は、リハビリパンツ使用の方が大半であったが、ホームで生活をして行く中で、布パンツに改善した利用者が4名いる。法人全体で、トイレでの排泄を基本とした取り組みを行っている。訪問時、トイレ介助の声掛けや、動きは感じられなかった。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事摂取量、水分摂取量、活動性を意識した支援を行っている。ヨーグルトや乳製品を摂取していただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現在は、週2回午後に入浴して頂くようにしている。	週2回、13:30~16:00の時間のころに、入浴介助している。(早番職員2名にて対応。)軽く入浴拒否をする方が1人いるが、2~3回声を掛けて対応している。夏場は回数を増やしたり、シャワー対応をしている。着替えの衣類は利用者自身で選択している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活リズムや体調に応じて、居室で休んでいただくようにしている。夜間は本人の就寝時間に合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋の管理をしながら、日々の状態観察と支援の注意点に留意しながらケアを行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の好みややりたいこと等を尊重し、物や場の提供を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	なかなかその都度、希望に沿って外出することは出来ないが、定期的に近所のスーパーに買い物にいたり、食事にいたり、バスハイクを企画し楽しんだりしている。	天候と体調により、1~3日おきに1時間程散歩と、月1~2回バスハイクをしている。花見・お祭り・生家等に出掛けている。近隣には桜の名所が多く、楽しみとなっている。毎回、ゴミステーションへごみ捨てをしてくださる利用者もある。大きなプランターで、花を育てて楽しんでいる。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームおからぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる利用者には、お金を渡している。基本的には、事務所で管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時、対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	十分な広さをとり、ゆったり過ごせるようにしている。季節の飾りつけを行い、季節感を演出するようにしている。	ホールを中心に居室が配置されており、見守りがしやすい構造である。ゆったりしたソファ、大きなテレビが気にならない音量でついている。一人で落ち着かれている利用者の隣でテレビを見る利用者がいてもトラブルが起きることはない。季節が感じられる装飾等が施されている。ひな祭りに向けて作品を思案しているところである。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファと食堂の椅子と2箇所あり、気の合った利用者が好みの場所で会話を楽しんでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が自宅で使用していたタンスを持ってきていただいたり、自宅で使用していた食器類、写真等を持ってきていただき、落ち着いた環境になるよう支援している。	電動ベット・加湿器・暖房・ロッカー・床下収納スペース・洗面台は備え付けで、寝具一式はレンタルである。 家からの持ち込みは、整理筆筒・時計・カレンダー・写真・色紙などがある。居室で一人での時間が少なく、大半はホールで過ごしている。清掃が行き届き、清潔感がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレは3箇所を設置しており、安心できる環境である。バリアフリーになっており、移動にも支障がないようにしている。		